

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

木頭中学校
「学力向上実行プラン」

- 自分の意見や考えを伝える
- 学ぶ意義を実感し、主体的に授業に取り組む

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 谷口 拓馬	委員 校長:中島 功 教頭:小泉 博嗣 研修主任, 3学年主任:谷口 拓馬
------------------	---

校長

中島 功

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

全教職員による授業参観の機会を生かし、取組状況の把握・改善を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。	・新しく得た知識・技能を、既習事項に結びつけ、更なる理解へ繋げることができる。	・授業内での小テストや、単元ごとの確認テストなどの実施を行い、生徒の定着度を図り、活用する。 ・少人数を生かした、個別指導の時間を増やし、生徒の実態に合った指導を行う。		・小テストや確認テスト、単元テストなどを実施し、知識の定着も高まってきている。 ・生徒の実態に合った課題プリントをそれぞれ配布した。 ・授業の残り時間にワーク等で得た知識の定着を図った。	・習得した知識を日常の生活で活用できるような場面を設定する。 ・ICTなどを効果的に活用し、主体的、対話的で深い学びの実現を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の感想・意見を恥ずかしがらずに表現することができる。 ●資料から読み取った内容を自分の意見を書くなど「活用する力」が乏しい生徒が多い。	・自分の考えや意見を論理立てて説明することができる。 ・問われていることを正確に読み取り、得た知識を活用し、答えを導くことができる。	・自分の考えを発表・表現する時間をつくる。 ・活用型の問題を多く取り入れる。 ・日々の日記や終学活で行っている日直スピーチを継続する。		・行事ごとに自分が得た経験をまとめ、自分の考えを表現することができた。 ・助言、発問の仕方がうまくいかず、生徒が問われていることに正確に答えることができない場面があった。	・他者の表現から得た気づきを共有する機会をつくる。 ・生徒に深い学びを引き出せるような助言や発問を行う。 ・生徒自身に考えさせる時間をもっと設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ意欲的に取り組み、積極的に発表することができる。 ●家庭学習習慣が身に付いておらず、自ら課題を見つけ、主体的、計画的に学習に取り組む姿勢が身に付いていない生徒が多い。	・自ら課題を見つけ、自分で考えたり、他者との意見交流をしたりすることを通して、解決策を見つけることができる。 ・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。	・生徒が学ぶ意義を実感できるような授業づくりを行う。 ・各教科ごとの学びの大切さを伝える。 ・学んだ知識や技能を使って解決・表現できる場面を設定する。		・生徒が考え、行動している時に教員が助言をしすぎる時があった。 ・既習と、新しい知識のつながりに気づく機会が増えた。	・生徒が学ぶ意義を実感できる授業づくりを行っていく。 ・振り返りの時間を確保し、自らの成長・変化に気づける機会を設ける。 ・生徒自ら表現する機会を増やしていく。

令和5年度 学力向上ロードマップ

